

6/25
 大阪府歯科保険医協会 敬
 発行人 志岐 大
 大阪市浪速区幸町1-2-33
 電話(06)6568-7731(代表)
 http://osk-net.org/
 2017年第1270号
 ●定価・年間10,000円 月1,000円
 ●1977年5月23日第三種郵便物認可
 (毎月5、15、25日発行)

主な医療・介護改善スケジュール

	2016年	2017年	2018年	2019年
70歳以上の患者負担の限度額引き上げ(高額療養費制度)		2017年8月から段階的に実施		
入院時の居住費(光熱水費)の負担増		2017年10月から段階的に実施		
後期高齢者医療保険料軽減特例の縮小・廃止へ		2017年4月から段階的に実施		
(介護)「現役並み所得者」について、介護利用料を3割負担に			2018年8月から実施	
(介護)利用者負担の上限額引き上げ【高額介護サービス費制度】			2018年8月から実施	
【今後さらに検討】				
受診時定額負担の導入	(「かかりつけ医普及」を理由に)病院の外来受診の定額負担の対象拡大	法案提出		
	(「かかりつけ医普及」だけでなく)定額負担のあり方について検討			実施
市販品類似薬の負担増や保険はすし	診療報酬改定の議論		診療報酬改定で実施	
	引き続き関係審議会(社保審医療保険部会等)で議論			実施
75歳以上の窓口負担1割→2割				実施をめぐす

社会保障費の削減鮮明

骨太方針 18年同時改定に照準

「経済財政運営と改革の基本方針2017」(骨太の方針2017)が9日、閣議決定された。同方針は、18年度予算編成と並面の経済財政政策を左右する基本方針で、診療報酬改定にも大きく影響する。社会保障分野では、「医療費・介護費の高齢化を上回る伸びを抑制しつつ、国民ニーズに適合した効果的なサービスを効率的に提供する」と謳う。しかし、実態は医療や介護の給付を抑え込む社会保障削減強化方針である。

負担増と給付抑制

社会保障分野では、高齢化に伴う社会保障費の伸びを毎年大幅に削減する「経済・財政再生計画」を着実に実行し、国民にさらなる負担を押し付けようとしている。

18年診療報酬・介護報酬等の同時改定では、改定の工程(表)に沿って医療・介護費抑制を進める算段だ。医療では、連携強化を建前とした介護への誘導を推進。介護では、人員配置の基準緩和や自立支援の名の下に要介護からの追い出しで安上がりの介護を目指す。診療報酬・介護報酬の同時改定と共に医療費抑

制の道具に使われるのが、強引な病床の機能分化と病床削減や、医療から介護へと患者を流す、病院からの追い出しと在宅医療の推進だ。進まない病床削減に痺れを切らし、病床の機能分化を都道府県に押し付け、インセンティブを与えることで進めようとしている。また診療行為データを見える化し、地域差を理由にした医療費削減、薬価制度や終末期医療の改革を推進する。その他、生活保護受給世帯の受診回数の抑制や強引な自立促進を進めるなど、社会保障費を大きく削減しようとする意図が見える。

宇佐美宏保団連歯科代表に聞く

歯科診療報酬改善の展望はどこにあるのか。政府が一番怖がるのは、世論とマスコミの盛り上がりだ。戦後、大きな成果となった医療運動が3つある。義歯の点数

を大きく引き上げた「保険で良い入れ歯」運動と看護料を20%引き上げた「ナースウェーブ」、内レンズ」の保険適用だ。

「保険で良い入れ歯」運動では、▽診療報酬における技術料の引き上げ▽患者の窓口負担の引き下げ▽患者の負担を軽減し、患者・国民に広く受け入

れるられ、全自治体の過半数に当たる1600を超える地方議会で見解書が採択された。こうした運動の結果、1994年の診療報酬改定では、総入れ歯の点数が40%アップした。これほどの技術料アップは後にも先にもこ

の改定以外にはない。これらの運動の教訓は、患者、住民と開業医が手を携えた運動が全国規模で広がれば、医療費抑制という政府の固い壁を崩すことができることだ。

運動を成功させるには、▽患者・国民との共闘関係の構築、▽医療従事者同士の一致団結が大切だ。診療報酬が患者・国民の受ける医療内容の質を保障し、規定する

「負担の軽減など受療しやすい制度・体制をつくる」ことであり、歯科医師の収入を上げるためだけの狭い運動にしてはならない。

過去の運動の教訓を汲み取って、「保険で良い歯科医療」署名を広げよう。2018年報酬改定で引き上げを勝ち取り、低額歯科医療費政策を打倒していきましょう。(おわり)

過去・現在・未来

国民との共闘が重要

「保険で良い歯科医療を」大阪連協会の街頭宣伝の様子

「保険で良い歯科医療を」大阪連協会の街頭宣伝の様子

「保険で良い歯科医療を」大阪連協会の街頭宣伝の様子

「保険で良い歯科医療を」大阪連協会の街頭宣伝の様子

「保険で良い歯科医療を」大阪連協会の街頭宣伝の様子

「保険で良い歯科医療を」大阪連協会の街頭宣伝の様子



医療課に要望書を提出する吉田副理事長＝1日、東京

来春の診療報酬・介護報酬の同時改定に向け保日、「か強診」をはじめとする歯科診療報酬の不合理是正や介護の居宅療養管理指導費との給付調整など、診療・介護報酬に関する改善要望について厚労省に要請し懇談

した。大阪歯科協会からは吉田裕志副理事長が参加した。大阪歯科協会から診療報酬改定では15項目を要望。懇談では、「か強診」の施設基準は、う蝕や歯周病の重症化予防に対する治療の質と直接結びつかないため、新たな要件を付け加えて矛盾を拡大するのではなく、すべての歯科医療機関が同じ条件で算定できるように再編・整理

した。在宅医療では有機的な連携や居宅への訪問診療をより評価する体系に改定するよう求めた。保険局の小嶺祐子保険局医療課長補佐は「様々なご意見に基づき、「か強診」の施設基準を満たした医療機関をどう評価するか検討する」と述べた。

介護報酬関連では8項目を老健局に要望。懇談では、「訪問指」と「口腔衛生管理加算」の別途

入れ歯」運動発足から25年目を迎える。マスコミ対策も欠かせないが、患者と日々接する開業医には待合室で情報を発信し、署名活動を行うことができる。

医療・介護の報酬改善へ

近畿ブロック 厚労省に要請

景気回復実感なし
 骨太の方針では、現状の日本経済を「企業収益は過去最高水準、雇用は大きく改善した」と評価。しかし、国民にその実感はない。資本金10億円以上の大企業の経常利

益は1・42倍(12年比)、内部留保は400兆円超といずれも過去最高水準を記録する一方、労働者の賃金は微増に留まり、非正規雇用者の割合は4割近い状況にある。格差と貧困が広がるな

か、これ以上、国民から医療を遠ざけることは許されない。協会は、秋の国会に向けて「保険で良い歯科医療」の実現を求め、患者負担の引き下げや歯科保険の給付範囲を広げる署名に取り組む。

今号同封



協会は、「保険で良い歯科医療」の実現を求める請願署名に取組んでいる。患者さんに手渡しできるポケットティッシュ付署名のご要望は協会まで。

「保険で良い歯科医療」請願署名 推進ポスター

し、在宅医療では有機的な連携や居宅への訪問診療をより評価する体系に改定するよう求めた。保険局の小嶺祐子保険局医療課長補佐は「様々なご意見に基づき、「か強診」の施設基準を満たした医療機関をどう評価するか検討する」と述べた。

算定について、先行して懇談した保険局医療課にも要望し、「日常的な口腔衛生管理と医療の必要性から管理している行為との違いが明確に整理できれば検討の余地はある」としていたことにも触れながら要望した。

歯界

古くから地震、雷、火事、親父が日本人の脅威だった。しかし、家庭内における親父の権威は地に墮ち、自然災害以外に新たに原発事故やミサイル、テロなど新種の脅威が登場した。特に昨今話題となっている痴漢冤罪は、世の親父たちの恐怖の対象である。

今日の数字
97万6979人
 厚労省が公開した2016年の出生数。初めて100万人を下回った。